

ロフトの子ども室。室内側の壁にアクリル板を使うことで気配が伝わり、ドアも設けなかった。フロアが異なっても、親子のつかず離れずの関係をあんばいよくキープ。



玄関ホール。正面はクローゼットとシューズボックス。階段は手すりがなく、開放的に。



大小さまざまな形の窓を使い、軽快な印象を与える外観。デザインのにも、デッキは重要な役割を果たしている。



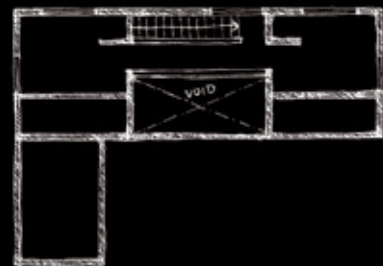
設計者からの一言

奥村晃司

家族ぐるみで親好のあった親しい友人家族からの依頼で、互いの生活スタイルもわかり合えているはず？だからと、必要なこと以外は一切口に出さず「お任せします」と言っていた。とても嬉しかった反面、かえって僕の小さな心臓にプレッシャーという重荷を容赦なく浴びせてきました。

土地をはじめ、コストカットのための新しい仕上げ、現場の管理者や脇坂社長と繰り返し検討した見積もりなど、お施主さん側の立場で親身になっていただいたことで、やっと着工に漕ぎつけることができました。

それも、こちらの要望に迅速に対応して協力していただいた脇坂工務店のお陰です。



晴れた日には、青空の色を映し海も爽やかなブルーに。室内から、こうして海が眺められる暮らしを実現。暖かい時期はデッキでもよく過ごす。



懐かしさに寛ぎ 海を眺める暮らし

小樽市・Nさん、Mさん宅／第30代、父親70代、夫婦50代・40代、子ども2人
設計監理／奥村 晃司建築計画室 TEL0134-62-0719 施工／(有)脇坂工務店 TEL0120-711-525

「銭函で、海を眺めながら暮らしたい」。希望は非常に明解だった。敷地は道路を挟んで住宅が並び、その向こうが日本海。暑寒の山々も連なる。そのためLDKを2階に置き、続くデッキは海に対して斜め、対角線に配置。石狩方面から緩やかにカーブを描く海岸線と共に、コバルトブルーの世界が視界に広がる。

設計を依頼した奥村晃司さんとは長年の友人関係にあり、「家を建てる日が来たら」と決めていた。イメージは古い学校のような、懐かしさを感じる空間。コスト面と質感の両立を考えて、例えば床の素材はフローリングではなく、あえて構造用合板にするなど素材が吟味されたが、その結果、仕上がりのにも懐かしさを感じる趣となった。

吹き抜けのリビングは 実面積よりもゆったり

1階は父親と弟の部屋だが、生活時間帯が異なるためシャワーを設けた。キッチンには2階に1カ所、続くLDに家族6人が集う。来客も多いためテーパーは大きめのものを造作。吹き抜けのリビングは、デッキの開放感もプラスされ、実際の面積よりも広く感じられる。NさんのコレクションであるCDと、奥さんが大好きな絵本が飾れるよう壁面に収納をつくったが、そのディスプレイがインテリアにもひと味加えている。

施工は、奥村さんを通して脇坂工務店に依頼。対応も親身で「信頼できる仕事ぶりだった」と満足している。

設計監理

SLOW HOUSE

奥村晃司建築計画室

小樽市桂岡町4-28
TEL/FAX 0134-62-0719
<http://www.ne.jp/asahi/slowhouse/7/>

施工



(有)脇坂工務店

☎ 0120-711-525
本社営業部 小樽市銭函2丁目43-9
TEL 0134-61-2488
本店 札幌市東区北11条東4丁目5番地
TEL 011-785-2088
<http://www.wakisaka-EO.com>

※住宅雑誌「Replan」79号より抜粋。